

Yordan Markov
gadulka

吉野弘志
contrabass

2019 12月07日(土)

開場 19:30 night live

開演 20:00~

(2ステージ入替なし 途中入場可) (1drink=600円~)

MC 3000円+2drinks order

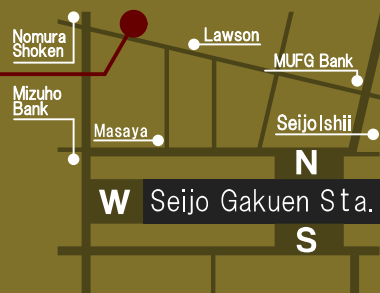
CAFE BEULMANS

03-3484-0047

info.cafebeulmans@gmail.com

東京都世田谷区成城6-16-5-2F

メールでのご予約の場合、
必ず当日ご連絡がとれる電話番号を
ご記載ください。



ヨルダン マルコフ

1977年、ガドゥルカを中心地であるトラキア地方のノヴァ・ザゴラ市出身。7歳の頃よりガドゥルカを習い始め、17歳には町の舞踊グループのアンサンブルとして活躍。シューメン大学音楽科卒業後、ノヴァ・ザゴラ市の音楽教室でガドゥルカとソルフェージュを教える傍ら、近くの村の子供たちに歌を教えたり、ライブ活動を行う。2006年1月来日、まだまだ日本では馴染みの薄いブルガリア音楽を紹介しようと活動を始め、民俗音楽バンド《BALKAN》などに参加。2016年、アコーディオン奏者佐藤芳明らと共に《ヨルダン・マルコフ・ブルガリア五重奏団》を結成。活動開始から1年経たずに都内ライブシーンで話題となり、翌年1st album《Iztok》をリリース。



吉野弘志

1955年広島市生まれ。高校卒業後、広島交響楽団の田頭徳治氏に師事しクラシックコントラバス奏法を習い始め、その年の秋に上京してNHK交響楽団の野口武士氏に師事する。1975年に東京芸術大学音楽学部器楽科(コントラバス専攻)に入学。在学中より明田川荘之(piano)トリオのメンバーとしてジャズ・クラブに出演するようになる。1980年、坂田明(sax)トリオに参加、翌年には同グループでヨーロッパ・ツアーをおこなう。以後、富樫雅彦(percussion)トリオ、加古隆(piano)トリオ、山下洋輔(piano)パンジャ・スウィング・オーケストラ、板橋文夫(piano)トリオ、塩谷哲(piano)トリオ、など数多くのグループに参加する。現代音楽の分野での活動も活発で、高橋悠治(piano, composer)、三宅榛名(piano, composer)、吉原すみれ(percussion)等ともしばしば共演、1985年には、故・武満徹プロデュースの" MUSIC TODAY "に出演、2006年の東京オペラシティでの武満徹トリビュート・コンサート"SOUL TAKEMITSU"にも出演した。現在は、ベース・ソロと『彼岸の此岸』『吉野弘志モンゴロイダース・ネオ』を活動の中心に、自らの民族楽器としてとらえているウッドベースの可能性を追究すべく『張林(揚琴)とのデュオ』、ウッド奏者・常味裕司の『アラブ音楽アンサンブルFarha』などに参加している。リーダー作品に「泣いたら湖/吉野弘志・モンゴロイダース」と、ベース・ソロアルバム「on Bass」、「吉野弘志 彼岸の此岸/Feeling the Other Side」がある。